

2024年度 群馬大学共同教育学部
学校推薦型選抜・帰国生選抜問題

教育専攻

小論文

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題用紙を開いてはいけません。
2. 問題用紙は表紙を含め2枚、解答用紙は1枚、下書用紙は1枚です。落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所があった場合には申し出てください。
3. 受験番号と氏名は全ての解答用紙の所定の欄に必ず記入してください。
4. 解答は指定の解答用紙に記入してください。
5. 解答用紙は持ち帰ってはいけません。
6. 問題用紙と下書用紙は持ち帰ってください。

教育専攻 小論文

次の文章は、ドイツの社会学者マックス・ウェーバーが著した『職業としての学問』という本の一節である。これを読んで、以下の問いに答えなさい。

近ごろの若い人たちは、学問がまるで実験室か統計作成室で取り扱う計算問題になってしまったかのように考える。ちょうど「工場で」なにかを製造するときのように、学問というものは、もはや「全心」を傾ける必要はなく、たんに機械的に頭をはたらかすだけでやっていけるものになってしまったかのようにかれらは考えるのである。だが、ここで注意すべきことは、こうした人たちの大部分が、工場とかまた実験室でどのようなことがおこなわれているかについてなにも知っていないということである。実験室でもまた工場でも、なにか有意義な結果を出すためには、いつもある——しかもその場に適した——思いつきを必要とするのである。とはいえ、この思いつきというものは、無理に得ようとしてもだめなものである。もとより、それはたんなる機械的な計算などとはおよそ縁が遠い。だが、たんなる計算といえども、よい思いつきを得るための欠きえない一手段にはなるのである。この意味で、たとえばある社会学者が、よい年をしながら数カ月にもわたって何万ものくだらない計算問題に頭を使っていたとしても、かれはあえてこれを悔むには及ばない。ただ、もしこのばあいかれが計算機のたぐいにばかりたよっていたならば、おそらく期待された結果は出てこないであろう。しかも、このばあいもしも計算の途中で、そこに出てくる個々の結果のもたらす効果についてあらかじめなにかを思いついていなかったならば、実はこのとるにたらぬ結果すらも出てこないことになるのである。

一般に思いつきというものは、人が精出して仕事をしているときにかぎってあらわれる。もちろん、いつもきまってというわけではないが。

(出典：マックス・ウェーバー著(尾高邦雄訳)『職業としての学問』岩波書店、1936年(1980年改訳)、23～24ページ、傍点は原文)

問1 筆者は「思いつき」を得るためには、どういうことが必要だと考えているか、説明しなさい。(200字以内)

問2 あなたがこの文章を読んで学んだことを中学生に説明するとした場合、どのように説明しますか。簡潔に述べなさい。(600字以内)